



# 学校だより

## 8・9月号



令和5年 8月28日  
横浜市立三ツ沢小学校

### なつやす じゅうけんきゅう 夏休みの自由研究

こうちょう たかぎ のぶゆき  
校長 高木 伸之

体育倉庫の裏に立つ三ツ沢小の百日紅(サルスベリ)はこの辺りでは一番の大きさです。その百日紅が満開の花を見せてくれています。

学校では、子どもたちが取り組んだ夏の自由研究の作品が展示、紹介されます。その作品の一つ一つに努力や工夫の跡が見られ、いつもとても感心しています。



私も小学校5・6年のころ仲のよかった友達と一緒に「クモの研究」という自由研究をしました。今、思えば、少し変わった研究かもしれませんが、クモは昆虫と違い、足が8本で独特の模様や大きさで、すみかもクモの巣の上や地面の中など多岐にわたります。やろうと思ったわけは、友達と遊んでいるときに「コガネグモ」という、大きな、しかも、黄色と黒の鮮やかなクモを見つけてうれしかったからです。その後、定期的に山や野原、古い建物の軒下、橋の下などクモが住んでいそうな場所をひたすら探して回りました。「オニグモ」を見つけたときには、背中の模様が本当に般若のように見えて驚きました。山の中で「ナガコガネグモ」を見つれたり、地面の中から「ジグモ」を見つれたりしながらとても充実した時間を過ごしました。学校にあった、「原色日本蜘蛛類大図鑑(保育社)」を片手に、かなりの種類のクモを見つけたことに加えて、クモの巣を黒い画用紙にとり、シッカロールも振りかけ、上からラッカーのスプレーをかけて標本づくりをしました。

「三角網」や「丸網」などクモによって違う巣の作り方に興味をもって取り組みました。調べたいことに、しっかりと時間をかけて、友達とともに取り組めたことは私にとってかけがえのない経験となりました。今は、インターネットでクモの生態や様子、巣の作り方などは苦労しなくても見られる時代です。そういう意味では、忘れられない貴重な体験だったと思います。

自由研究は、今や親子で取り組むことが珍しくない時代となっています。保護者の方が手伝うことは、親子の共通体験として会話が生まれ、むしろよいこととも言われています。しかし、今年には、それに加えて、AIが登場しました。教育系のクラウドサービスのチャットボットで相談すると回答してくれるとのことで、例えば、「テーマを決めたいのですが…」と相談すると「あなたの好きなことは何ですか。」と問われ、「海の生き物です。」と答えると、「本やインターネット、水族館で…」などとアドバイスしてくれるそうです。三ツ沢小でも、すでに活用した人がいるのではないでしょうか。

時代はどんどん変わっています。尋ねれば簡単に答えてくれるAIはとても便利です。活用していくことは積極的に進めてほしいと思いますが、体験を通して知識を得ること、その知識を活用し、様々な人の話を聞いてさらに広げることを大切にしていきたいものです。保護者、地域の皆様をはじめ関係の皆様には、子どもたちのこの夏の体験的な学びを、ぜひ今後につなげられるようご支援いただければ幸いです。